

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901894		
法人名	株式会社健康会		
事業所名	グループホームあけぼのⅡ		
所在地	旭川市曙2条6丁目1番1号 (電話) 0166-21-3513		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年10月24日	評価確定日	平成19年11月21日

【情報提供票より】(平成19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16人	常勤	16人, 非常勤 0人, 常勤換算11.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造2階建て造り		
	2階建ての	1～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	水道、光熱 16,500円
敷金	有(円) 無		暖房費冬期間6,000円(30日)
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	450 円	昼食 300 円
	夕食	550 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	10名	女性	8名
要介護1	3	要介護2	2		
要介護3	3	要介護4	5		
要介護5	5	要支援2			
年齢	平均 84.2歳	最低	55歳	最高	102歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	忠和クリニック、くにもと病院、メイプル病院、ほのぼの歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、市の中心部にほぼ位置しており、利便性もよく古くからの住宅街の中に建てられている。近郊からの入居者が多く、地域密着型としては利用者も見慣れた風景として安心して暮らしている。オーナーは医療関係であり、複数のサービス事業を展開し、幅広い知識が培われている。ホーム内や各居室は、ありのままのスタイルで気取ることなく、見慣れた空間、居心地の良い空間として利用者も過ごしている。現在は男性の利用者が多く、その中で個性を活かした生活作り、女性持ち前の知識や経験により調理に係わることなど、職員も一緒に暮らしている。各職員の熱い思いが伝わってくる期待されるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題である環境整備については検討が行なわれ、利用者の一人ひとりの状況に合わせて取り組まれている。研修についても、ホーム合同で教育委員会が設置され、内部研修の強化が検討されている。また、多くの職員が参加できるように年次計画にも盛り込まれている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の全員参加により、ケアサービスを振り返り、理念や地域密着についても確認を行ない、自己評価に取り組んでいる。今回の検討により問題点を意識し、今後に向けて前向きな姿勢となっている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年度6月に1回目を開催し、町内会長、利用者、利用者家族、管理者、グループホーム職員、病院相談員、本部職員の参加で行なわれている。会議では職員も気が付かないような意見の交換も行なわれ、今後の運営に反映できる成果を得ることができている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>来訪時に職員は、家族に積極的に声掛けを行ない、コミュニケーション作りに努めている。家族が自然体で、意見や苦情等を話せる雰囲気を作り、利用者一人ひとりの思いや家族の要望に答えられるようにしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、運営推進会議に町内会長の参加を求め開催することができている。ホームの様子を伝えられる場面がようやくできあがり、これからも地域住民の協力が得られるように交流を深め、より地域に密着した関係が構築されるように努力されることを期待する。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に作りあげた理念が掲示されているが、地域密着型としての内容を再確認するうえで、地域との関係を作り上げるために再度検討したいとのことである。	○	管理者も、職員も地域密着型としての問題意識は十分に認識しており、これからのあり方としてホームとしての現理念を基本にそれぞれの意義を職員と一緒に考えたいとのことである。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の要所に理念が掲示され、また職員証にも明示されており日々携帯することで、想いについては受け止めている。日々のケアの中に実践として取り入れている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者も職員も地域との付き合いは大切と十分に理解しており、積極的に働き掛けを行なっている。日常の声掛け挨拶、町内会加入、広報誌の配布、行事への参加の呼び掛けなどを行ない地域へ溶け込む努力がなされている。しかしまだ地域の十分な理解にまでは到っていない。	○	安心した利用者の生活環境を確保するためにも、よりいっそうの努力、働き掛けを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、前回評価における課題についても検討が行なわれ改善されている。今回の自己評価結果を活かし、気が付いたことを日々のケアに活かせるよう取り組まれている。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月に第1回目の運営推進会議を利用者、家族、町内会長、ホーム職員、相談員、本部職員等の参加により開催している。地域への広報やサービスの向上に取り組む内容となっている。しかし、その後の開催はなく参加者選定や議題の内容に困惑している。	○	ほかの事業所の参加や地域関係者への積極的な呼び掛けを行ない理解を深めることから、関係作りに努めることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームとしての係わりや疑問点についての問い合わせは行なっているが、行政との積極的な連携にはまだ至っていない。	○	運営や現場の実情等を積極的に伝え、どのように係わるかを市の担当者と意見交換を頻繁に行ない、協力関係を築かれることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に数回発行の広報誌「ほほえみ」、毎月報告している金銭出納帳、領収書とともに担当職員より利用者の暮らしぶりが家族に送られている。また、受診後の病状や変化についてもその都度報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪された時に、職員は積極的に声掛けを行ない、気軽に要望や意見を伝えてもらえる雰囲気づくりに努めている。「意見箱」の設置もされているが利用はない。家族からの意見を大切に扱い、ケアに反映できるようにされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は最小限に抑えるように努力されている。職員離職時には交代期間に時間をかけ、利用者の精神的負担の軽減に努めている。移動についての報告は毎月の手紙でされている。しかし、ゆとりあるケアについては人手不足が感じられる。	○	利用者のゆとりある生活の確保を実現するために、職員の増員がなされるように期待する。

旭川市 グループホーム あけぼのⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	連絡協議会や研究会に加入し主催の研修会には積極的に参加している。外部研修にも交代で参加できるようにされている。また、同系列のホーム間では教育委員会の発足もあり計画的に内部研修や報告会が行なえるよう検討されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にはほかの事業所が少なく、近隣での交流は行なわれていないが、同系列の事業所の職種との交流は盛んに行なわれている。職員は各種研修会の参加により、ほかの事業所職員と情報交換を行ないサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時に本人や家族に事前に見学してもらい、ホームに馴染んで頂けるように対応されている。慣れるまで家族と一緒に泊まって頂くこともあり、十分な事前情報を職員が周知して、馴染むことに工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、掃除、畑作業など利用者の力量に応じてできることを楽しみながら、職員と一緒に進んでいる。料理の味付けや惣菜作り、野菜作りなど利用者から教えてもらうこともあり、支えあう関係が構築されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や環境、家族構成など家族から情報収集を行ない、アセスメントシートの活用で利用者一人ひとりの希望や要望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントシートを活用し、状況把握に職員が全員で係わり、課題の把握に努め日常のケアに活かせる取り組みが行なわれている。家族の想いを取り入れ、職員が意見を出し合いながら介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヵ月に1度の見直しを行ない、状態に変化があれば早期の見直しも行なわれている。作成された計画書は家族に確認後、同意をもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩、買物、通院への付き添いなど、一人ひとりの希望に応じた対応が行なわれている。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望する医療機関への通院に付き添ったり、協力医療機関による往診が受けられるなど、適切な受診支援が行なわれている。また医療連携により看護師の健康管理も行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	関係医療機関と十分に連携を行ない、終末期対応についての整備が行なわれている。終末期に向けた指針や同意書が整備され、家族と方針が共有できる体制になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りや羞恥心に配慮しながら日々のケアを行なっている。入室時の声掛けや自尊心を傷つけないようにさりげない対応に心掛けている。しかし、面会簿の記入や広報の掲載写真の同意が得られていない。	○	使用目的の説明や、公開の同意が得られるように、本人や家族に了解を求めることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のペースを大切にし、一人ひとりの思いや希望に沿った支援が行なわれている。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒に食べ、和やかに過ごされている。後片付けも利用者の力に応じて一緒に行なわれている。しかし、現在は外部発注での献立と食材購入となっており、一人ひとりの希望や好みが十分に聞けていない。	○	ひと月に1回は一人ひとりの希望を取り入れた食事ができるようになってきているが、献立にマンネリ化が見られる。利用者と一緒に買う楽しみ、選ぶ楽しみ、作る楽しみ、食べる楽しみを活かした取り組みを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に対応日は設定されているが、一人ひとりの状況に合わせた対応も常時されている。夜間入浴も可能な体制になっているが、現在希望される方はいない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の新聞取り、ごみ捨て、ホーム内の植物の水やり、布きんや雑巾作りなど、一人ひとりの生活歴の中から持てる力を活かした支援が行なわれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、通院への付き添いなど、一人ひとりの希望に応じた対応が行なわれている。また、施設に隣接された畑には水やりや収穫時に一緒に出掛け、成長の楽しみを持てるように支援されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵が掛けられておらず、夜間のみ施錠となっている。利用者が外出しそうな時はさりげなく対応し職員と一緒に出掛けるようにしている。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルの整備は行なわれているが、消防を交えての避難訓練はまだ十分とはいえない。	○	マニュアルは整備されているが、利用者の安全をより確実のものとするためにも、地域の協力をお願いし、職員とともに緊急時に備える体制整備が期待される。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を把握しており、利用者の状態に応じて調理方法も工夫がされている。介護度の高い利用者も多く、状態に合わせた食事が用意されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には植物が育てられ、役割として水やりをしたり、書道好きの方の作品が展示されたり、季節を感じることで飾り付けが行なわれている。日当たりも良く、気になる臭いもなく居心地良く過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具・仏壇・写真などが持ち込まれており、自分の洗濯物も干され、利用者が安心して過ごせる空間となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。